

シャツとスカートの組み合わせにおける配色効果

A体型の場合

高 森 寿*

Effects of Shirt-Skirt Color Combinations In the Case of Physical Form A

Hisa TAKAMORI

(Received October 2, 1989)

Impressions of twelve color combinations of shirts and skirts were examined to obtain data for dressing instruction. The results are as follows: impressions of the pale yellow and black shirts were not influenced by the colors of skirts, that is, the pale yellow shirt made an impression of 'simple', 'harmonious', and 'elegant', and the black shirt that of 'heavy', 'dark', 'strict', and 'cold', irrespective of the skirt color; the pale purplish pink shirt made different impressions depending on the combined skirt color, that is, this shirt was 'disagreeable' with the dark reddish brown and the dark brownish gray skirts and 'light' and 'young' with the yellowish white and the dark purplish blue skirts.

緒 言

我々が日常着用している衣服の形態及び色彩は多様化をきわめているが、その中で我々は個々に衣服を選択し、それぞれの個性を表現している。衣服選択の条件としては、色、柄、デザイン、材質等があるが、中でも色彩は「色を着る」といわれるほど、美しい装いの上で重要であると考えられる。さらに、色は単独で用いられることは稀であり、多くの場合他の色と組み合わせ（配色）用いられる。色には各々固有の感情があるが、配色によって各々の色のもつ感情が融合したり反発したりして単色の場合とは異なった印象を与えると考えられる²⁾。本報ではシャツとセミタイトスカートの配色に限定し、色彩を変化した際の印象の変化についてS.D.法による調査を実施し、高等学校及び大学における着装の指導の一資料を得たいと考えた。その結果二、三の成果を得たので報告する。

研究方法

調査試料

1986年4月、熊本市内の繁華街において撮影した、20代と思われる女性の全身像の写真100枚における

衣服の上衣と下衣の色を配色カードに従い分類し、出現率の高かった色、上衣3色、下衣4色を選出した。この結果にもとづき本調査では上衣の色として、生なり (pale yellow, 5Y 9.0/3)、ピンク (pale-purplish pink, 6RP 8.5/3.5)、黒 (black, N 1.0) を、下衣の色として生なり (yellowish white, 2Y 9.0/1)、茶 (dark reddish brown 10R 2.5/4.5)、紺 (dark purplish blue, 6PB 1.8/6)、グレイ (dark brownish gray, 4YR 3.5/1.0) を用いた。なお、上衣は市販の同デザイン、同サイズのニットのTシャツ、下衣は市販綿布 (コットンツイル、サンウェル、20番手たて 108本/インチ、よこ58本/インチ) を用いて製作したセミタイトスカートを使用した。次に、シャツとスカートの配色の異なる組み合わせ12種を構成し、標準的体型 (A体型) の人台に着用させ写真撮影したものを調査試料 (以下テストドレスと略す) とした (表1)。写真のサイズは6つ切り (縦30cm, 横20cm) を使用した。

調査方法

実施時期は1986年11月、被験者は本学学生100名 (男子50名, 女子50名) である。調査試料は被験者が着席したときの目の高さになる程度の位置で提示した。提示の順序は96通りとした。評価に用いた用語はやさしい-きつい、静的な-動的な、すっきりした-ごてごてした、若々しい-年寄りじみた、調和

* 家政教育

表1 調査試料

試 料		シ ャ ツ		ス カ ー ト	
シャツ*スカート	JIS 記号	系統色名	JIS 記号	系統色名	
生なり*生なり	5Y 9.0/3	pale yellow	2Y 9.0/1	yellowish white	
生なり*茶	5Y 9.0/3	pale yellow	10R 2.5/4.5	dark reddish brown	
生なり*紺	5Y 9.0/3	pale yellow	6PB 1.8/6	dark purplish blue	
生なり*グレイ	5Y 9.0/3	pale yellow	4YR 3.5/1	dark brownish gray	
ピンク*生なり	6RP 8.5/3.5	pale purplish pink	2Y 9.0/1	yellowish white	
ピンク*茶	6RP 8.5/3.5	pale purplish pink	10R 2.5/4.5	dark reddish brown	
ピンク*紺	6RP 8.5/3.5	pale purplish pink	6PB 1.8/6	dark purplish blue	
ピンク*グレイ	6RP 8.5/3.5	pale purplish pink	4YR 3.5/1	dark brownish gray	
黒 *生なり	N 1.0	black	2Y 9.0/1	yellowish white	
黒 *茶	N 1.0	black	10R 2.5/4.5	dark reddish brown	
黒 *紺	N 1.0	black	6PB 1.8/6	dark purplish blue	
黒 *グレイ	N 1.0	black	4YR 3.5/1	dark brownish gray	

表2 印象調査の評価用語

	非 常 に 1 2 3 4 5 6 7 非 常 に 7	ど ち ら で も な い 4	
1) やさしい	_____	_____	きつい
2) 静的な	_____	_____	動的な
3) すっきりした	_____	_____	ごてごてした
4) 若々しい	_____	_____	年寄りじみた
5) 調和した	_____	_____	不調和な
6) ほっそりした	_____	_____	ふっくらした
7) 上品な	_____	_____	下品な
8) 暖かい	_____	_____	冷たい
9) やわらかい	_____	_____	かたい
10) 軽快な	_____	_____	重々しい
11) 明るい	_____	_____	暗い
12) 好き	_____	_____	嫌い

した—不調和な, ほっそりした—ふっくらした, 上品な—下品な, 暖かい—冷たい, やわらかい—かたい, 軽快な—重々しい, 明るい—暗い及び好きな—嫌いな12項目とし, 12種のテストドレスについて S. D. 法による7段階評価(表2)を実施した。

結果及び考察

S. D. 法による印象調査の結果と因子分析

各テストドレスごとに各用語における全被験者の平均値を求め尺度値とし, これを因子分析のデータとした。このデータを基にシャツの色を基準としてイメージプロフィールを描くと図1のようになる。

S. D. 法による印象調査の評定結果

図1に示すように評価項目“すっきりした—ごてごてした”, “調和した—不調和な”, “上品な—下品な”においては, 各テストドレスの評価の順位が酷似しており, シャツとスカートが生なり*生なり, 生なり*紺及び生なり*グレイの配色のテストドレスは“調和した”, “すっきりした”, “上品な”, “好きな”という印象となり, ピンク*茶及びピンク*グレイの配色のテストドレスは“不調和な”, “ごてごてした”, “下品な”, “嫌いな”と評価されている。近年, 自然派志向が高まり, 生なりに根強い人気があるが生なりを用いた配色が全体的にみて良い印象を与えているのはこの影響が大きいと考えられる。

因子分析の結果

各テストドレスの尺度値を基に篠原の DISKDCOR 及び DISKPDVAR を用いて各評価用語間の相関係数を求め(表3), 直接バリマックス法による因子分析を行い, 各テストドレスにおける印象を分析した。表4に因子負荷量を示した。各因子の意味内容をまとめると次のようになる。

シャツとスカートの組み合わせにおける配色効果

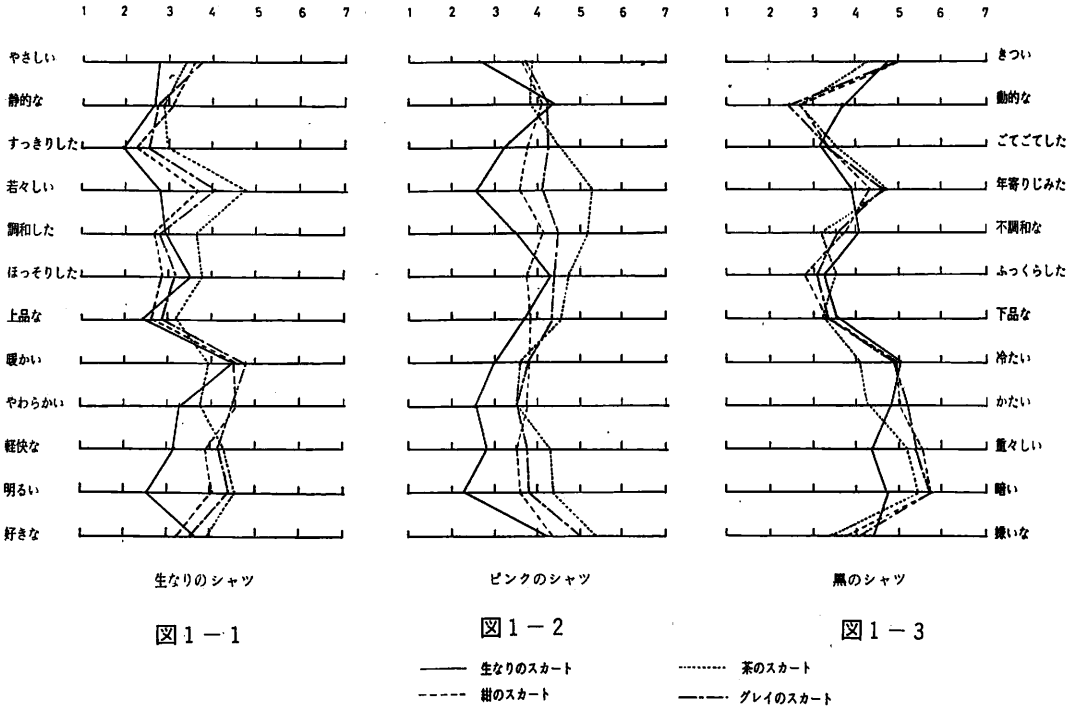


図1 テストドレスの印象の比較(シャツの色を基準として)

表3 評価用語間の相関係数

評価用語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1 やさしい-	1.000											
2 静的な -	-0.394	1.000										
3 すっきりした-	0.271	0.567	1.000									
4 若々しい-	0.665	-0.357	0.474	1.000								
5 調和した-	0.164	0.639	0.905	0.347	1.000							
6 ほっそりした-	-0.535	0.738	0.640	-0.049	0.679	1.000						
7 上品な-	0.133	0.722	0.960	0.297	0.926	0.724	1.000					
8 暖かい-	0.685	-0.713	-0.435	0.254	-0.370	-0.860	-0.501	1.000				
9 やわらかい-	0.904	-0.598	-0.118	0.514	-0.175	-0.800	-0.238	0.888	1.000			
10 軽快な-	0.913	-0.599	0.206	0.812	0.024	-0.514	0.012	0.592	0.820	1.000		
11 明るい-	0.926	-0.562	0.210	0.827	0.038	-0.522	0.032	0.614	0.851	0.990	1.000	
12 好きな-	0.033	0.681	0.855	0.251	0.963	0.768	0.930	-0.426	-0.293	-0.106	-0.087	1.000

(1) 第1因子：上品な-下品な, 調和した-不調和な, 好きな-嫌いな, すっきりした-ごてごてした, ほっそりした-ふっくらした, 静的な-動的なの評価項目の負荷量が多い。評価の因子と名づける。

(2) 第2因子：明るい-暗い, 軽快な-重々しい, やさしい-きつい, やわらかい-かたい, 若々しい-年寄りじみた, 暖かい-冷たいの評価項目の負荷量が多い。活動性の因子と名づける。

表4 各評価用語別の因子荷重量
(バリマックス回転後)

評 価 用 語	第1因子	第2因子	共通性
7 上品な - 下品な	0.975	0.010	0.951
5 調和した - 不調和な	0.975	0.037	0.952
12 好きな - 嫌いな	0.970	-0.094	0.949
3 すっきりした-ごてごてした	0.937	0.180	0.911
6 ほっそりした-ふっくらした	0.725	-0.588	0.872
2 静的な、 - 動的な	0.699	-0.571	0.815
11 明るい - 暗い	0.009	0.992	0.984
10 軽快な - 重々しい	-0.008	0.981	0.962
1 やさしい - きつい	0.136	0.952	0.924
9 やわらかい - かたい	-0.231	0.895	0.855
4 若々しい - 年寄りじみた	0.314	0.765	0.684
8 暖かい - 冷たい	-0.450	0.694	0.685
因子分散	5.109	5.436	10.545
因子の寄与率	42.574	45.298	87.871

評価用語とテストドレスの関連

評価用語と各テストドレスとの関連をみるため、各テストドレスの因子得点を求め表5に示した。図2に評価用語の因子荷重量による位置づけを、図3に因子得点によるテストドレスの位置づけを示した。評価用語とテストドレスの関連を図2及び図3から分析すると次のようになる。

テストドレスが生なり*生なり、生なり*紺、生なり*グレイの場合、すっきりした、調和した、上品な、好きな印象となる。生なり*茶のテストドレスは印象がはっきりしない。

シャツの色がピンクのテストドレスは組み合わせるスカートの色によって印象が異なる。茶及びグレイのスカートと組み合わせると、下品な、不調和な、ごてごてした、嫌いな印象となり、シャツの色が生なりのテストドレスの印象と逆の印象を与えている。紺のスカートとの組み合わせは、動的な、ふっくらした印象となり、生なりのスカートとの組み合わせでは、やさしい、若々しい、暖かい、やわらかい、軽快な、明るい印象となり、12種のテストドレスの中では最も明るい、やわらかい配色となっている。ピンク及び生なりは2色ともに暖色系の色であり、トーンも高いので今回のような結果となったと考えられる。

シャツの色が黒の場合は、組み合わせるスカート

の色に関係なく、きつい、年寄りじみた、冷たい、かたい、重々しい、暗い印象となり、黒のもつ色の印象がテストドレス全体の印象を左右したものと考えられる。

以上の結果から、今回用いた配色のテストドレスの場合、シャツの色が生なり及び黒のように無彩色あるいは無彩色に近い色の場合は、シャツの色がテストドレスの印象を左右していると考えられる。一方、シャツの色がピンク(有彩色)のテストドレスの場合は組み合わせるスカートの色によってその印象が異なる。つまり、上衣に色みのある色(有彩色)を用いる場合は組み合わせる下衣の色の選択はより慎重に行うことが大切である。

要 約

シャツとスカートの配色の異なる12種のテストドレスについて印象調査を実施した。その結果、黒及び生なりのようにシャツの色が無彩色あるいは無彩色に近い色の場合は、主としてシャツの色のもつ印象が影響し、スカートの色の影響は少ないことが推察された。特に、生なり*生なり、生なり*紺、生なり*グレイの配色のテストドレスは“調和した”、“すっきりした”、“上品な”、“好きな”という印象となり今回使用した調査試料の中では最も評価が高かった。シャツの色がピンクの場合は、組み合わせるスカートの色によりその印象が異なった。

今回は、A体型についてのみの結果を述べたが、下半身肥大体型であるB体型についても同様の調査

表5 各テストドレスの因子得点

テストドレス	第1因子	第2因子
生なり*生なり	-1.420	-1.308
生なり*茶	-0.137	-0.061
生なり*紺	-1.402	-0.165
生なり*グレイ	-1.030	0.141
ピンク*生なり	0.264	-2.069
ピンク*茶	2.117	0.104
ピンク*紺	0.640	-0.629
ピンク*グレイ	1.434	-0.433
黒*生なり	0.162	0.664
黒*茶	-0.293	0.791
黒*紺	-0.205	1.469
黒*グレイ	-0.144	1.493

シャツとスカートの組み合わせにおける配色効果

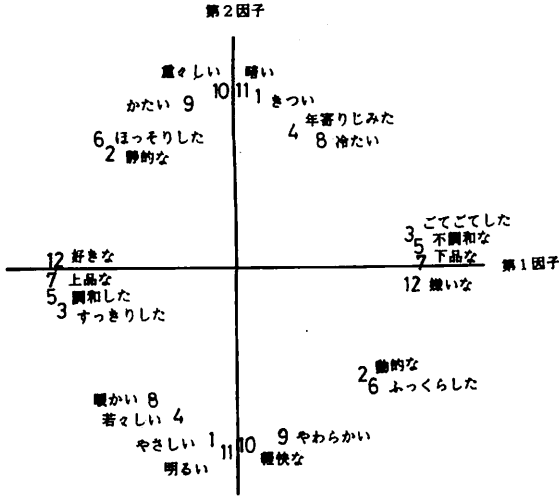


図2 評価用語の因子負荷量による位置

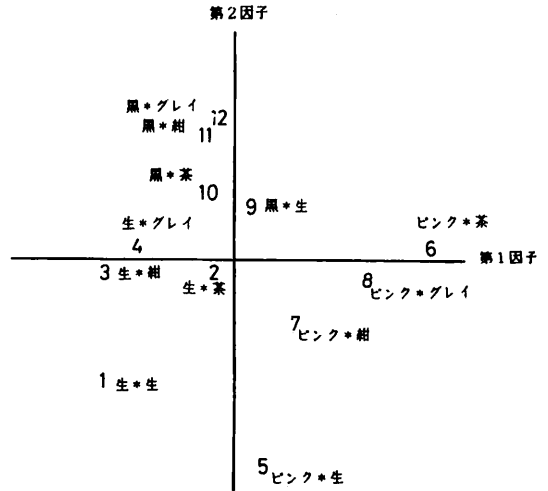


図3 テストドレスの因子スコアによる位置

を実施しているのので、今後、体型による印象の相違についても検討していきたい。

謝 辞

本調査の統計処理にあたって終始ご指導を賜りました心理学科の篠原弘章助教授に深く感謝いたします。また、調査にあたってご協力いただきました甲

斐真由美、藤野志保の両氏にお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 中田満雄・市川津義雄・細野尚志：服装と色彩，日本色研事業株式会社，1，1980。
- 2) 文化服装学院・文化女子大学：文化服装講座，文化出版局，8，105，1976。